

朝日山だより



❖ バレンタインデー ❖
(バレンタインチョコ渡しの様子)



❖ 祝日企画 ❖
(ボーリング大会の様子)

社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホームあさひ

ヒューマンサポートタッチ

佐賀県東部発達障がい者支援センター結

〒841-0073 佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

(0942) 81-5409 (支援室)

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahiyaama@grace.ocn.ne.jp

『ご挨拶』

施設長 高取正憲

昨年は7月に九州北部豪雨に見舞われ、年々災害が身近なものとなってきており心配をしています。朝日山学園としても、「絶対に大丈夫」と言えない状況を受け止め、避難訓練等、より現実的な想定をした訓練を実施していかなくてはならないと思っています。



その為にも他者と手を継ぐことが出来なかったり、人の多さに混乱してしまうような重い知的障がいや自閉症を有する利用者が他者と一緒に行動できるように、日々経験を重ねていけるような支援が大切だと思っています。

今年度、スタートしたグループホームあさひも、スタッフやヘルパーの頑張りで何とか1年を終えることが出来そうです。今後もスタッフ・ヘルパーともに協力して利用者にとって過ごしやすい、楽しいGHを目指していきたいと思っています。

朝日山学園のサービスの基盤として「ご本人の気持ちに寄り添えるサービスを」と掲げています。スタッフは常にこのことを意識して支援に取り組んでいます。同様にグループホームあさひやヒューマンサポート・タッチ



(ヘルパー事務所)においても、とても大切なことだと思っています。まずは支援者として謙虚に、そして丁寧に利用者に関わってもらうことで、言葉では意思を表現できない重い知的障がいや自閉症を有する利用者の気持ちを理解し、寄り添う為の支援者側の基盤が出来ていきます。利用者の気持ちに寄り添えるように、皆で支援の質を高めあっていきたいと思っています。

例年にないインフルエンザの大流行で私も含め、スタッフの家族が感染するというケースが多くなってきています。マスク着用と手洗い、消毒を細目に行い、利用者に感染することが無いように努めてまいります。皆様も体調には充分にお気を付けください。これからもあさひ会の取り組みにご指導、ご協力を宜しくお願い致します。

～朝日山学園の取り組み～

『利用者支援の取り組みについて』

生活支援員 田中大輔

今までの朝日山学園の支援は利用者の障がい特性に合わせて「個別支援」を中心にした取り組みであり、利用者の方の負担等を考慮し、刺激を少なくするように意識してきました。しかし、いつも同じ支援ができるとは限りません。例えば、震災が起きた時です。いつもの整えられた環境ではなくなり、いつもと違う場所、時間での生活になる事も考えられます。そういった環境の中で、利用者の方々がどのくらい適応できるか、周りを意識した行動ができるか、とても重要となります。どのような環境にも適応できる力の重要度をスタッフ間で話し合い、支援の中で意識するようになりました。

その利用者に合わせた「個別支援」が多かった朝日山学園の支援から、適応できる力を育てていくという視点をもとに、利用者が自身の事だけではなく「相手を意識する事」ができるように今年度は取り組みをしていきました。その内容を作業面、運動面の2つに



分けて紹介したいと思います。

まず、作業面についてです。
一人ひとり個別で行っていた作業から、2人以上で行う「グループ作業」を取り入れました。例えば、ペットボトル作業でラベルをはがす作業があります。今までは、その作業を1人の方が行っていました。それを2人



で担当し、Aさんがラベルをはがし、はがしたものをBさんがラベルとボトルに分別するというように作業を分担式にしました。必然的に自分だけのペースではなくなり、相手のペースも意識しないといけなくなります。導入当初は、戸惑いが見られる事がありましたが、継続していく事で途中で中断することもなくなり、最後まできちんと行えています。そして、相手のペースに合わせて「待つ」こともできるようになりました。



次に運動面についてです。
現在、朝日山学園では活動の1つとして歩行を行っており、今まではスタッフと利用者の方で手を繋いでいました。それを今年度から「利用者同士」で手を繋ぐ事を取り入れました。そうすると、緊張感もあるのか、より意識が高くなり、走り出しなどの行動が少なくなりました。

現在では、手を繋げる方も増え、色々な利用者の方同士のペアを組む事もできるようになりました。相手を意識する機会を多く取り入れていく事で利用者の方の行動が変わり、これはスタッフも感心させられるほどの

結果でした。

社会や地域では、自分だけではなく必ず「相手」が存在し、周りのペースに合わせないといけないことがあります。支援する側として、どんな環境でも対応できる力を意識した取り組みが求められると考えています。勿論、その方の障がい特性の理解や気持ちを汲み取る事は忘れてはいけません。ここの部分は支援の基盤とし、利用者の方がどういう状態でどういう気持ちでいるのかは、支援者として大切にしていきたいと思います。その中で、今後も相手を意識した取り組みも継続していき、利用者の方の生活をより豊かなものにしていきたいと思っています。

～行事報告・クリスマス会（12月）～



『朝日山学園クリスマス会』

生活支援員主任補佐 江藤敬一

平成29年12月22日、朝日山学園の大作業室でクリスマス会が行われました。登園した利用者の皆さんの表情からクリスマス会を楽しみにされている様子も伺えます。シャンメリー、ジュースで乾杯をしてクリスマス会が始まりました。テーブルのサンドイッチ、クリスマスケーキや、お菓子や、会場後方に設けたフードエリアから、皆さん好きなお菓子やスイーツ、飲み物を取りに行かれ賑わっていました。

今年のステージは、歌手の立川翼さんが来てくださり、本日限りのスペシャルライブを開いて下さいました。“クリスマスソング”から、“川の流れのように”と皆さんが知っている曲や、立川さんの



オリジナルソングを唄って頂き、一緒に歌を口ずさむ方、立川さんの歌声に聞き入っておられる方、素敵な時間を演出してくださり会場も歌の魅力に引き込まれていました。

全員参加の割りばし入れゲームには、複数のペットボトルの口に一人1本ずつ持った割りばしをスタッフの合図で落とし、テーブル対抗で得点を競いました。入ったときの歓声や、入らなくても「おいしい！」など、皆さん楽しまれていました。

また、利用者の音楽発表では、4月から音楽活動の時間で練習してきた「にじいろ」「小さな世界」の2曲を楽器演奏し、ご家族や来賓の皆さんに披露しました。



そして今年も学園にサンタクロースがやって来て、利用者の皆さんにプレゼントを渡していきました。プレゼントを貰い、包みを開けた時の利用者の皆さんの喜ばれた表情は今でも印象に残っています。



今年も学園クリスマス会を開催するにあたり、景品や会場のお菓子などご寄付をいただきました皆様、ご多忙な中、朝日山学園のクリスマス会に参加していただいた来賓の皆様、いつも朝日山学園の取り組みにご理解とご協力いただき、温かく見守って下さりありがとうございます。

平成29年度のクリスマス会も沢山の利用者、ご家族、来賓の皆様の笑顔を見る事が出来ました。この場を借りてお礼と返させていただきます。ありがとうございました。

～グループホームあさひより～

『開所から一年をふり返り』

グループホームあさひ 主任 菅 洋平

平成29年4月にグループホームあさひが開設されました。グループホームあさひはA棟10名。B棟9名の定員からなる2棟のグループホームです。新設へ向けて、保護者の意向やスタッフの思いなども反映させていただきました。

自宅で生活されていた方の様子は、保護者の方より話を伺うのみで、実際に支援する機会がなく不安も大きかったです。また、あさひ会法人で運営していた「グループホームひまわり」「グループホームこすもす」で生活されていた方も、移行にあたり今までと生活環境



「Nさんのお風呂掃除の様子」

が変わり、全てが一変してしまう状況に、どのような反応をされるのか心配でした。その中で最も印象に残った事があります。ある方は昨年度までグループホームを利用されていました。当時から親元を離れての生活に特別不安を感じている様子はなく、保護者からもグループホームでの生活を嫌がる様子はないとの事でした。そのため、グループホームが移行しても環境の変化に多少の不安や緊張はあると予測はしていましたが、直ぐに慣れるのではないかと考えていました。しかし、他の方が徐々に慣れていく様子とは異なり、表情に以前までの笑顔が見られないどころか、じっと外を見つめる機会が多く、私のその方へ抱いていた印象とのギャップに、改めて環境の変化がもたらす影響やそれぞれが抱える思いを垣間見た瞬間でした。

今のグループホームあさひは、経験の浅いスタッフが中心となり支援しているグループホームです。それぞれの障がい特性を十分に理解してのスタートではなく、利用者の方の支援を通じて理解を深めていく毎日、それは今でも変わりません。そんな中、大きな事故も無く何とかここまで来られたのは、利用者の方の頑張りが大きく、保護者の方の理解があったからだと思います。開所当時に比べるとスタッフも各利用者の方の様子を把握しつつあると思います。しかし、利用者の方が安心して安全に生活できるために、そしてグループホームでの生活が有意義なものになるためには、まだまだ課題はたくさんあります。これからも今後の事を見据え、課題に向き合い、今何をしなければならないかを常に考えていきたいと思っています。その為に、スタッフ一丸となり、朝日山学園と連携を更に密にしながら一層の努力をしていき、利用者の皆さんと共に私達支援者も一緒に成長していきたいと思っています。

☆ボランティア募集しています

朝日山学園では、日中活動のお手伝いをして頂ける方を募集しています。活動内容は、利用者の方との散歩や作業のお手伝いです。ボランティアにご協力いただける方はご連絡をお待ちしています。



(朝日山学園支援室 TEL 0942-81-5409)

担当：橋口

◎寄付者ご芳名

平成29年7月～平成30年1月

有留千代子 様 ・ 内田 考喜 様 ・ 緒方 克陽 様

貝原美保子 様 ・ 桑原 和子 様 ・ 権藤 ツヤ子 様

齊藤 房子 様 ・ 鈴木 洋二 様 ・ 角 勲 様

田中 洋子 様 ・ 堤 清子 様 ・ 寺崎 正博 様

原口 敏子 様 ・ 吹原 泰基 様 ・ 松尾 初子 様

三木 洋子 様 ・ 山崎 勝義 様 ・ 山本 立夫 様

吉田 登代子 様 ・ 浅井簡易郵便局 様

上田歯科医院院長 上田 明彦 様 ・ 西清寺 様

第十九回佐賀カントリー倶楽部チャリティゴルフ大会有志一同 様

医療法人野田内科設置の募金箱に募金頂いた皆様

上田歯科医院の募金箱に募金頂いた皆様

以上の皆様にご協力いただきました。ありがとうございます。

▣編集後記

昨年の7月には九州北部豪雨、今年に入ってからは大雪やインフルエンザ流行等で生活に支障をきたされた方も多かったと思います。いつ“非日常生活”を強いられるか分からないものです。特に、自然がもたらすものには抵抗できず、受け入れるしかないのですが、そこには、受け入れるための「準備」が必要で、今年度、朝日山学園でも取り組んでいる「適応できる力を育てる支援」を目指す取り組みもその1つだと考えています。取り組みをしての利用者の方々の変化には支援者側も良い意味で驚かされ、支援者の方が刺激をもらっています。

GH あさひも1年が経とうとしています。これからも協力しながら、利用者を中心に前向きに支援ができるように取り組んでいきたいと思っています。何より、利用者の気持ちにより添える、安心して過ごせる学園・GH あさひでありたいと思っています。

(古川)